

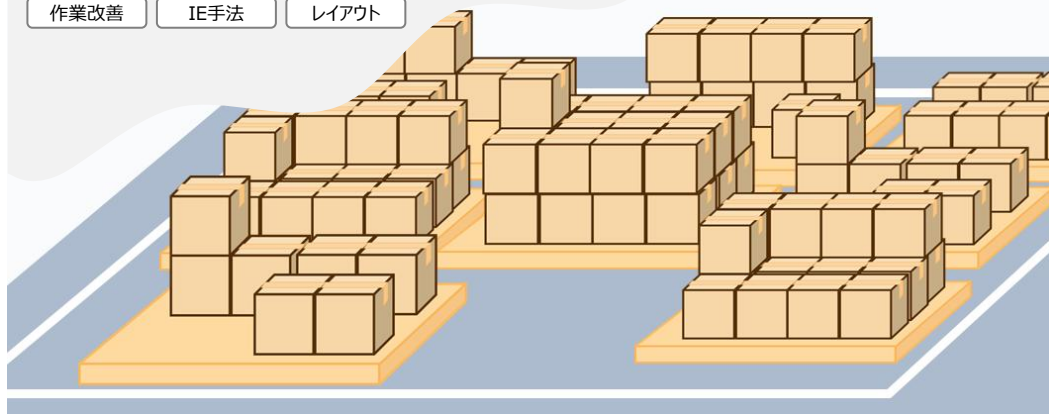
入荷品の滞留解消！ 「仕事の滞り」を見直す改善ストーリー

2026年09月29日

作業改善

IE手法

レイアウト



物流現場では、日々の入出荷業務を滞りなく進めることが求められます。

しかし、繁忙期になると急激な物量増加により、普段どおりに業務を進めることが難しくなります。

特に、出荷業務を優先することで入荷業務が後回しになり、気づけば入荷品が滞留しているといったケースも少なくありません。

このような状況を、「繁忙期だから仕方がない」「一時的なものだから」と、そのままにいませんか？

実は、普段とは異なる繁忙期だからこそ、現場に潜む問題や改善のヒントが見えてくることがあります。

本コラムでは、「現場を知る」ことから始め、問題を発見し、課題を明確にして改善につなげたプロセスを、当社倉庫の改善ストーリーとしてご紹介します。

目次

1. 現場を知ることで「問題」を発見
2. IE手法を活用した「課題」の見える化
3. 「仕事の滞り」を見直す改善の実施
4. まとめ

1. 現場を知ること「問題」を発見

今回の改善の舞台となる物流現場は、機械メーカー向けの多種多様な部品を取り扱っています。

サイズの違いはもちろん、中には個体管理が必要な部品もあるなど、現場にはさまざまな特性や運用上の制約がありました。

物流現場には、扱う製品に応じて特徴が異なるため、改善に取り組む際には、まず「現場で何が起きているのか」を正しく把握することが重要です。

そこで私たちは、改善を始める前に、実際の作業を見て、現場の声を聞き、業務の流れを確認するなど、“現場を知る”ことに十分な時間をかけています。

今回“現場を知る”ために行った2つのアプローチ法

Method.1 ヒアリング

現場のことを最もよく知っているのは、日々その業務に携わっている現場の方です。改善活動では、現場の実態を正しく把握し、鮮度の高い情報を得ることが重要です。まずは現場の方にヒアリングを行い、実際に起きている問題を把握しましょう。

Method.2 データ分析

入出荷データや在庫データなど、蓄積されているデータを分析してみましょう。客観的なデータから傾向を把握することで、現場の感覚だけでは見えにくい問題や、改善の方向性を明らかにすることができます。

これらのアプローチにより、今回は2つの「問題」が見えてきました。

“現場を知る”ことで「問題」が2点浮上

Method. 1 【ヒアリング】

⇒繁忙期になると入荷品が滞留。

製品格納前に使用する仮置きスペースによって入荷作業スペースが圧迫され、
入荷作業の効率が低下する

Method. 2 【データ分析】

⇒1日の入出荷件数が一定件数を超えると入荷品の滞留が発生していた



2. IE手法を活用した「課題」の見える化

では、なぜ入出荷件数が増えると、入荷品の滞留が発生してしまうのでしょうか。
入荷品の滞留要因を明らかにし、「課題」を明確にするためには、さらなる調査が必要です。

まずは通常時の作業状況を調査し、作業の実態を把握していきます。
今回はワークサンプリング法・ストップウォッチ法の2つのIE手法を用いて現状調査を実施しました。

▶[IE手法については、第1回掲載記事参照](#)

ワークサンプリング法



作業者の稼働状況を調査し、
稼働率・非稼働率を把握

ストップウォッチ法



各作業にかかる時間を計測し、
作業時間の偏りを把握

“IE手法”を用いた現状調査の結果

- ▶ 午前中に完了すべき入荷品の格納作業が16時以降まで残っていた
⇒ 午前中は入荷、午後は出荷が基本スケジュールになっているが、出荷業務を優先し、入荷品の格納作業が後回しになっている
- ▶ 人や時間帯によって業務量に大きな偏りがあった
⇒ 1日の作業スケジュールの繁閑差が激しい
- ▶ 出荷作業におけるモノ探し時間が約15%を占めていた
⇒ 製品の格納が間に合っておらず、どこに何があるかわからない状態



当初は単純な物量増加によるスペース不足が入荷品滞留の原因と考えていましたが、実際には出荷業務を優先する運営によって格納作業が後回しになっていることが、真因でした。

ここから、「問題」を解決するために設定すべき「課題」が見えてきます。

課題

出荷時のモノ探し撲滅・繁閑差に対応した人員配置の見直し

3. 「仕事の滞り」を見直す改善の実施

ここからは、明らかになった「課題」に対して、実際に改善を実施していきます。

今回の調査では、時間帯によって業務量に繁閑の差がある一方、16時以降にも格納作業が発生していることが分かりました。

そこで、この時間帯の業務量の差を活用し、人員配置とモノの流れに着目した2つの改善を実施しました。

改善①：閑散時間帯に格納作業を行う担当者を配置

→作業員ごとに役割を設けることで、閑散時の“ムダ”を活用した運営を実現。

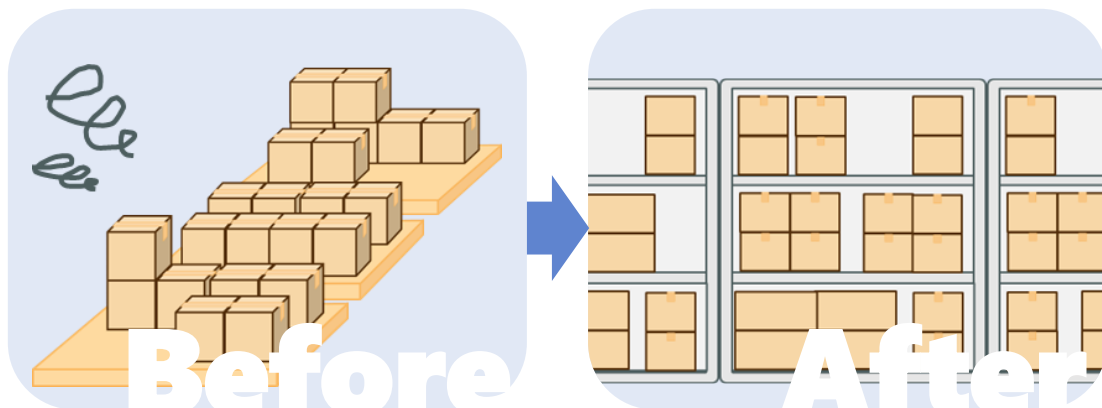
改善②：入出荷頻度の高い製品の格納場所見直し

→入出荷頻度の高い製品の格納場所を貨物の積み下ろし場所に近接させ、入荷後即時格納を実現。「そこに行けば常にモノがある」環境を整備。

これらの改善により、作業スケジュールの平準化と出荷作業時間の削減を実現。

繁忙期に発生する入荷品の滞留問題を解決することができました。

また、製品の入荷後すぐ格納されることにより、仮置きスペースの増加も防ぐことができました。



繁忙期は、現場にとって負荷が高まる時期です。

一方で、普段は見えにくい課題が表面化するタイミングでもあります。

その変化を改善のきっかけとして捉えることが、より強い物流現場づくりにつながります。

4. まとめ

今回の事例では、繁忙期に発生していた入荷品の滞留をきっかけに、現場の作業状況を調査し、問題と課題を明確にしたうえで改善に取り組みました。

繁忙期のようなイレギュラーな状況は、普段の業務を見直すきっかけにもなります。

当社では、誰よりも“現場を知る”ことを大切に、規模の大小にかかわらず、お客さまの現場に合わせた最適な改善支援を提供しています。

物流現場の改善についてお悩みの際は、ぜひお問い合わせください。

＼物流のお悩み、MDロジスにお任せください／



お問い合わせは[こちら](#)